

自己の成長を楽しんでみませんか？

総務省自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室課長補佐 野村 知宏

霞が関を志す理由は何でしょうか。「世のため、人のため」それも大きな理由でしょう。私の場合は、それに加え、「自己の成長」という目標がありました。自分が成長した、高まったと感じるときにこそ真の喜びがあり、結果として、社会に対して大きな貢献ができるように思います。

人を成長させるもの、その一つは常に自分が置かれた環境を変化させ、いろいろなものを吸収することではないでしょうか。私はこれまで、総務省本省での勤務に加え、沖縄県、和歌山県での勤務、アメリカの西海岸、東海岸に位置する2つの大学での留学生活とさまざまな経験をさせてもらいました。この過程においては、苦しいことも多かったですが、何より、これまで知らなかった世界を見、様々な経験をすることで、自分の成長を確かに感じることができ、人生を楽しませてもらっています。そして、その結果、この社会をより良くするために、多少なりとも役に立てたのではないかと考えています。

理屈による制度設計

私は、これまで総務省で数本の法律や制度の立案に関わらせてもらいました。先輩や後輩と政策の方向性について朝まで議論した日々、内閣法制局に通った日々、国会に提出した法案に係る大臣答弁の作成に勤しんだ日々。若い頃から国の大きな政策に関与させてもらう機会に恵まれ、忙しくも充実した日々を送りました。良くも悪くも、国の制度設計は理屈の勝負です。筋の通った議論や思考をしないと数多くの関係者を説得できません。他人を納得させることのできる、しっかりした論理構成や説明力が問われる毎日でした。いわゆる「夕張ショック」の後に作成した地方公共団体財政健全化法は、そうして皆で苦労して理論構築した法律の一つですが、地

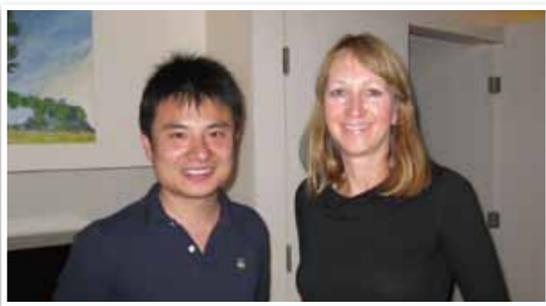
方で実際に運用され、財政の健全化に大きな役割を果たしている現実を見ると、確かな手応えを感じます。

地方公共団体での経験

昨年夏まで和歌山県で管理職を務めていました。若さの割に重い職責を担わせてもらい、県議会での答弁や地域の団体との話し合いの最前線に立たせてもらいました。議員や住民からの生の声に接することで、政策の具体的な評価や現場での実態をリアルに知ることができます。市町村税の徴収に関わる政策の立案では、教科書通りにいかない現実を突き付けられ、行政の現場は地方に存在することを思い知らされました。霞が関の理屈も現場での運用も重要であり、優劣はありません。肝心なのは、どちらの考え方も理解し、うまく融合を図りながら、より良いシステムに作り変えていくことだと思います。

米国留学での経験

入省8年目から10年目に向け、アメリカの大学院で勉強する機会を得ました。英語や文化の壁に苦しみながらも、ここで得たのは、専門性もさることながら、教授と話をしながら何本もペーパーや論文を書くことで、徹底的に考え抜き、論理的に正しい結論を出す思考力です。このときに掴んだ思考の方法や手



イエール大学政治学部のフランス・ローゼンブルース教授と

経歴

平成12年	4月	自治省採用 同 財政局調整室
平成12年	8月	沖縄県企画開発部地域・難島振興局市町村課
平成13年	4月	同 総務部財政課
平成14年	4月	総務省自治行政局公務員部福利課
平成16年	4月	同 自治行政局行政課
平成19年	7月	米国留学(イエール大学、スタンフォード大学)
平成21年	7月	和歌山県総務部総務管理局市町村課長
平成23年	6月	現職

段は一生もので、どんな仕事をしていても大いに役に立っています。

おわりに

総務省職員は、異動の機会に恵まれ、地方赴任はもちろんのこと、海外留学や大使館勤務の機会が頻繁にあり、どんどん自分が置かれる環境が変わります。新しい場所で新しい仲間と仕事や勉強をする、とてもワクワクする体験ではないでしょうか？ずっと同じ環境にいるのに比べ、得られる知識や積むことができます。人生経験のレベルが比べものにならないほど高くなります。ただし、そこには苦勞がつきものです。自分のそれまでの経験に比しあまりに重い職責に苦しみ、職務を放り出したくなることもあります。そこを必死に食らいつき、努力を重ねることによって新たな自分のステージが見えてきます。そうして、自分が成長したことを感じられたとき、人は人生の満足を得るように思います。

丹羽宇一郎さんの「人は仕事で磨かれる」という著書がありますが、人生の時間の多くを占める仕事でこそ人は磨かれ、成長するのではないかと思います。総務省では、厳しいながらも温かい、仕事を通じた人材育成システムが整っています。もっともっと成長したい、より良い自分に変えていきたいと思っている方、総務省の扉を叩くことをお勧めします。

経歴

平成19年	4月	総務省採用 同 自治行政局選挙部選挙課
平成19年	8月	静岡県総務部企画監(自治行政担当)付
平成19年	11月	同 総務部企画監(財政担当)付
平成20年	4月	同 総務部財務局財政室
平成21年	4月	総務省大臣官房秘書課
平成22年	7月	現職

多様な人々の暮らしや思いの中で～「地方自治」を仕事にすること～

総務省自治行政局地方債課収益事業係長 前田 茂人

試験勉強、エントリーシート、採用面接…就活の毎日は慌ただしく、そして慌ただしいままに人生の大きな決断を迫られてしまいます。3年前、私は採用担当者として多くの就活生の思いに触れながら、「地方自治」という仕事について私なりの思いを伝えていました。そして、今回もまた、私の思いが少しでも皆さんの参考になればと思い筆をとらせていただいています。

未熟な志を持って

私が行政官を志したのは単純に「政策」のダイナミズムに面白さを感じていたことから始まっています。財政再建、地域主権改革、経済成長戦略などの課題に対して、対応策を立案・推進していく仕事は日本の未来を左右する重要な仕事であると同時にそれ自体が魅力的な仕事に思えました。その中でも、国の、地方の行政機構の中であらゆる政策分野にかかわりながら、日本のありようを考えている総務省の職員に憧れ、総務省を志しました。しかし、恥ずかしながらこのときの私は「地方自治」の仕事の魅力の側面しか見ていなかったように思います。

多様な人々の暮らしや思いに触れて

静岡県赴任時に市町村の職員の方の家で数日田植えを手伝ったことです。一面の田園風景が広がる富士山の麓の村で田植えを終え、夜、酒を酌み交わしながら日本の農業政策について議論をしていると、その方は「俺らはただ、ご先祖様から受け継いだ土地を荒らしちゃいけない、その思いでやっているだけだ。」と私に語りました。私にはその言葉がとても強く響きました。そこには食糧自給率や農業の産業化などの政策的側面とは別に家族や暮らしに密着した農業の姿があったからです。

それまでの私は政策の先にある人々の暮ら

しや思いに目を向けていなかったように思います。静岡県赴任時に熱意溢れる地方公務員の方々と過疎地域で暮らす方々、中小企業で奮闘する方々などこれまで接することのなかった方々に出会い、そのたびに自分の小ささを痛感し、一方で新しい世界が広がっていくことに感動を覚えた経験は今でも忘れられません。

「地方自治」の仕事はこの「現場の思い」を抜きには語れません。今だからこそわかりましたが、就職活動の際、私が総務省の職員に温かさや懐の深さを感じていたのは、この「現場の思い」を大切にする姿勢がそこにあったからなのです。

「地方財政」の世界へ

総務省の仕事は、「地方行政」「地方財政」「地方税政」の3つの制度とその他の各種制度のバランスをとりながら、いわば「日本」という行政システムそのものをデザインしていくことです。

私が所属している自治財政局はその中の「地方財政」を担当しています。具体的には、地方公共団体の財政の健全性の確保、財源保障などをミッションとしており、東日本大震災においても、被災団体の財政支援のフレームを作るなど、「地方財政」の観点から「日本」をデザインしています。

私自身は地方債制度の担当として、地方公共団体の財政自主権拡大のための地方債制度改革、東日本大震災の被災団体に対する地方債の特例制度の創設、内外の金融市場の方々とコミュニケーションを通じた地方債市場の安定化、はたまた宝くじの活性化など幅広い仕事に携わっています。

「地方財政」の面白さは地方公共団体の多様性とその政策フィールドの広さにあります。「地方財政」といった場合も、日本全体(マク

ロ)で見たときと、個別の地方公共団体(ミクロ)で見たときでその姿は異なります。また、各種政策で「地方財政」に影響を与えないものはほとんどないため、「地方財政」の観点から、各種の政策に関わっていくことができます。1国家の「日本」と47都道府県1,719市町村の「地方」、そして数多の政策をそれぞれ結びつけていくことは質・量ともにタフな仕事ですが、新しい課題に日々チャレンジしていくことのできる魅力的な仕事です。

「地方自治」を仕事にすること

多くの就活生はそこが「何をしているか」をもって就職先を選択しているように思います。しかし、本当に大切なのは皆さん自身がそこで「どう生きるか」なのではないでしょうか。

私は「地方自治」を仕事にすることとは、多種多様な人々の暮らしや思いに触れ、日本の現実に目を向けながら、日本という国家そのものを改革するために生きていくことだと感じています。

今一度、皆さんがそこで「どう生きるか」を考えてみてください。そして、是非、皆さんにとっての最善の「生き方」とは何なのかを考えてみてください。その結果、同じ志を持つ仲間として、皆さんと酒を酌み交わしながら「地方自治」について語れる日が来たら…。私の人生にとってもこれほど幸せなことはありません。



静岡県富士宮市上柚野にて(筆者右端)